

麻しん（はしか）排除に向けた提言に対する意見等

日本消費者連盟／ワクチントーク

平成 19 年 7 月 9 日

第 14 回予防接種に関する検討会

1 団体の紹介 別紙参照

2 現在の活動状況

■2006年度活動状況

2007年2月・「ワクチントーク in 名古屋」に参加

・インフルエンザ治療薬「タミフル」服用後死亡事故について、厚労省に対し申し入れ(薬害タミフル脳症被害者の会、ワクチントーク全国、日本消費者連盟)

3月・「インフルエンザ治療薬タミフルの安全対策について」要望書提出(ワクチントーク全国と連名)

■2007年度活動方針

- ①予防接種問題について行政、ワクチンメーカーに対する申し入れ
- ②「ワクチントーク全国」とともに、集会・学習会を開催

3 「麻しん(はしか)排除に向けた提言」(資料5及び6)に対する意見

1)いずれの提言も2006年4月から導入されたMRワクチンの2回接種が前提となっているようですが、現在までに副反応等の報告はないのでしょうか。きちんとした副反応に関する調査・報告を示していただきたい。

2)資料5で「アウトブレイク対応」として1例でも発生したら感受性者対策として即ワクチン接種となっていますが、2回接種の安全性の調査が十分でない現状からすると、拙速な対策ではないでしょうか。不安をあおって接種を促すのではなく、きちんとした分析をした上で情報提供を行い、納得した人が接種を受けるといった形にしていただきたい。

3)資料5の「中・長期対策として」で「医療関係、教育関係等、小児に接する機会の多い教育関係機関および職業従事者では、別格として強く必要とする」とありますが、これらの対象者が麻しんの流行を拡大させている実態はあるのでしょうか。

以上

特定非営利活動法人 日本消費者連盟について(当連盟 HP より)

私たちのまわりには危険なものがいっぱい

私たちのまわりには、いのちや健康を脅かす危険なものがあふれています。合成洗剤、医薬品、化粧品、アスベスト、農薬、食品添加物、電磁波など数え切れないほどです。これらは人間や地球全体を汚染するだけでなく、後の世代への大きなツケとなって影響を及ぼしていくでしょう。

その根本の原因は、人の命より企業の利益を優先する価値観で政治がおこなわれ、世の中が動いているからでしょう。けれども、私たち消費者がこうした危険なものを見分け、買わないように、使わないようにすれば、現状を変えることができます。日本消費者連盟は、「すこやかないのちを未来につなぐ」ことを目標に、1969年の創立以来30年間にわたって活動を続けてきました。

5つの目標と方針

日本消費者連盟は、次の5つの目標と方針を一貫して掲げてきました。

- 生命の安全と健康を第一に考えます。
- 私たちのさまざまな権利が守られる制度をつくります。
- 経済的不公正をなくして、フェアな社会をめざします。
- 私たちの要求を企業や行政に積極的に働きかけ実現をはかります。
- 財政的には自立、政治的には超党派です。

全国の個人会員に支えられています

日本消費者連盟を支えるのも、その方向を決定するのも、会員一人ひとりです。日消連の活動資金は、会費や、ブックレット等の出版物の収益によってまかなわれています。企業や、政党、団体からの、援助、広告等はいっさいもらっていません。

日消連の考え方、活動に賛同していただける方は、どなたでも会員になれます。そして、より積極的に日消連の活動に加わっていただくことも大歓迎です。会員個人で、または、グループを作って、地域で活動することもできます。そうした活動の成果は確実にあがっています。

◆予防接種に関して

日本消費者連盟ではインフルエンザワクチンのボイコット運動以来、予防接種の運動団体であるワクチントークや予防接種制度検討市民委員会の人々とともに予防接種問題に取り組んできました。予防接種法が大幅に改正された1994年には、これらの活動から得た情報や考え方をまとめたブックレット『うけますか？ 予防接種』を出版、1997年には『うけますか？ 予防接種』の増補改訂版を出版しました。そして、予防接種法が改正された2001年にはワクチンの最新情報を盛り込んだ『うってはいけない！ インフルエンザ予防接種』を発行しています。

特定非営利活動法人 日本消費者連盟

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-9-19-207

TEL:03-5155-4765

FAX:06-5155-4767